



出会い

第六十八号平成三十一年一月

健康道場サラ・シャンティ
神戸市灘区八幡町3-6-19
T/F : 078-802-5120

君民一体の靈性の時代

清水正博

10月2日から10日までスペイン・バルセロナへ神戸との友好都市二五周年で市長の親書を持って行くツアーに参加しました。ヨーロッパに興味があった私ですが、世界平和を祈る創生神楽の表博耀さん、日ユ同祖論の権威で神戸平和研究所の柚浩二さんたちに誘われたので、転機到来かなと思いい参加しました。山陰神道80世の表博耀さんは3歳からお父様に修験道を教わり、縄文人は山伏で、里山に住んでいた、だから磐座も山の中腹にある」といったユニークな歴史観をお持ちなので、これはカタカムナと繋がる縁と感じたのです。

さらに後日クルーザーで淡路島へ行こうと誘われ、着いた所はユダヤ遺跡があるホテルで、そこは失われた10士族が来ていた証拠になるヘブライ語で書かれた丸石やダビデの星が彫刻された指輪が発見された場所なのでした。柚浩二さんの日ユ同祖論の話を聞いた直後にこんな処に連れて来られるなんて神計らしいでしょうか。その旅行の報

告も書きたいのですが、スタツフ瑠璃さんのブログ「瑠璃の星」に詳しく写真入り報告がありますのでご覧下さい。<http://ruri87.blog.fc2.com/>

さて、予想通り面白いことが起こりました。スペインから帰った3日後、トリプルラブの原裕子さんにお願ひしていた僕のハイヤーセルフの絵と解説文が届き、見てビックリ、なんとダビデ王なのです。なんでイスラエルの王様なの？と思ったのですが、

同日に武部正俊さんのブログに「ダビデの陵墓・神河町で発見」の記事がアップ



というシンクロが起こり納得。ダビデが生きていたのは紀元前1千年だから、これは縄文カタカムナ情報を発信してきた僕に日ユ同祖論との関係を気づかせるため、原裕子さんを通してダビデがハイヤーセルですよと教えられたのでしょうか。

吉野信子先生や越智啓子先生、カタカムナ学校の生徒さんのイスラエル訪問、上森三郎さんが神河町でキリスト、マリア、モーゼなどの墓を発見、保江先生の冠光寺合気道とキリスト教の関係などキリストやユダヤ関連のお話が近頃本当に多いのでなんでや？と思っていたのですが、それはダビデの力が働いていたからでしょうか。実は2年前に吉野先生がカナダに行かれた直後から次はイスラエ

ルですと言われ、一緒に行きませんかと誘われていたのですが、僕は学生時代にパレスチナ問題にも関わっていたので、イスラエルはちよつと断りしました。

でもダビデが生きていた紀元前1千年からのユダヤ問題を考えると、ダビデは縄文時代末期に来ていたことになり、とすると日本神話との関係が気になります。神道夢想流杖道の夢想權之助は鹿島神流の奥義を極めていまずから鹿島の神タケミカヅチ、又はオノコロ島を作った天沼矛が杖の起源だと權之助は言っているから正勝吾勝アメノシホミミになったかもしれないと思ってしまうのです。

保江邦夫先生も合気道の大家、矢作直樹先生も役小角の生まれ変わりのような方ですし、井上和幸先生はお能の大家ですから、古武道やお能やお神楽は縄文時代に生まれた型の文化なのだと思います。走りながら祈る」で書いた極意も修験道や千日回峰行から学んだことですから、サラ・シャンティは古神道の身体論を学ぶ場所になり、宮崎貞行先生、志波秀宇(北一策)先生、佐藤敏夫先生が来られて夢のような古神道縄文史講座が実現して縄文カタカムナ文化塾となったのです。

宗教と科学が統合する時代を象徴するように矢作先生の健やか塾の講座では神道の「中今を生きる」が保江先生の素領域理論で解説されます。中今になるのは高次元に繋がる方法なのですが、

私が走りながら祈る』で紹介したことと繋がったのです。それは天台本覚思想の伝統ある比叡山回峰行や摩耶山大日不動の滝に伝わる行法だからです。祈ったり瞑想をして歩くことは、副交感神経の働きが良くなり有酸素機能の開発に役立ち、持久力を養うので長い時間働いたり運動できるようになるだけではなく、諸法は皆空』である般若心経の世界に導かれて高次元に繋がる方法でもあったのです。

次元上昇とか高次元意識といっても分かりにくいですが、しかし意識が高い人と言えば高尚なことが好きな人などを云うのかもしれない。平凡社の『選きし世の面影』を読むと江戸時代は大変美意識の高い優れた文化国家だったと、幕末まで来た外国人たちは詳細に本国に報告しています。江戸までに世界で最も進んだ高次元意識、美意識を持った文化を成し遂げていたのでしょうか。それが私の場合、神道夢想流杖道の型稽古と出会い、江戸時代に発展した武士道の美意識を復活せよとの使命を与えられたようです。

もったいない、ありがたい、おもてなし、山川草木国土悉皆成仏の平和を祈る心、神人合一の心など日本独自の文化が生まれた縄文時代からの精神文化が蘇って欲しい、そんな気持ちでカタカムナに取り組んでいるわけですが、今年の平成から新しい元号へ変わる大切な時に、矢作、保江両先生が皇室の無事を祈願される大切なお役目を

演じておられる、そんなお二人がサラ・シャンティで塾を開いてくださっているのです。

そのタイミングで徳仁天皇、雅子皇后様の時代が始まるのですから嬉しいですね。私の勝手な願望ですが、今年私たち夫婦は72才となり6回目の亥年ですが、現在58才の徳仁様が3回(36年)先の亥年で94才になるまで在位され、その時私は108歳になり悠仁様が48才で皇位を受け継ぐお姿を見ながら次の元号の時代を12年生きて120才で人生をまっとうする。そんな人生を楽しく夢見て、天皇の靈性の時代をしっかりと生きるなんて想像するだけで幸せだと思っております。日本は贅沢な国だと思います。

閑話休題 本の紹介

筑波大学名誉教授 竹本忠雄さんの

『天皇 靈性の時代 日本の真姿』より。

表紙： 神武紀元も日本再興も宇宙物理学に

かかわる科学的真実だった！ 一系の天皇の貫かれた「民利優先思想」と崇高な「皇道」実践がいま靈性の新時代を啓く！

P14 靈性とはなにか？ 自己の心が「であること」の高い性質、状態、さらに次元であるといえましょう。日本人はこの「であること」の天才的民族でさえあります。

P18 万世一系は歴代天皇の連続性であるのみならず、日本文化の連続性の保証である。

「天皇とは日本文化の統合である」三島由紀夫

以上、竹本さんが言われる 日本ルーツとは 日本文明の役割を自覚すること」でカタカムナを学ぶ方に求められる姿勢で必須条件だと思いますが、この事は矢作直樹先生が多くの著書で述べられていることです。特に天皇の靈性については『天皇の国』、『天皇』、『天皇の祈りが世界を動かす』などを含め何冊にも書かれていますのでぜひお読みください。

歴史家トインビーの 神話を教えなくなった民族は100年続かない」という言葉のとおり、アメリカGHQの占領政策で日本神話は否定されキリスト教的文化がなだれ込み、3Sの性教育を植え付けられ、西洋的競争原理や物質中心主義に毒され日本の歴史や文化に対して否定的な考えを持つようになったのは残念なことです。2680年続いた皇室文化があるから明治維新以降の驚異的な発展があり、植民地解放、人種差別撤廃ができたことは誇るべきことですね。それは縄文以来の根源的伝統の持つ日本の靈性の「なるもの」があればこそで、それに目覚めればどれほど豊かで前向きになれるか、そんな人生をめざしている私からすれば本当に勿体ないことです。

60才を過ぎるまで古事記なんて読んだこともなく神話の神々の名前も知らなかった私が熱い愛国心で自分の国の事を語れるのは、六甲という土地に育ったおかげでカタカムナに出会い、縄文16000年の深い歴史を知り、神話がいつばい詰まった神社やお寺が点在している日本という国に生ま

れ育ったおかげだと思えます。そこに君と民の皇室文化の根源的伝統、太初(初)の靈性「なるもの」があったのです。ですから第126代徳仁天皇が世界中の人から受ける期待を背負って活躍されるお姿を拝見しながら同時代を生きていけることは大変ありがたいことだと思っております。

私は20才くらいまでアメリカ人もビックリするほどのアメリカカがぶれて、バンジューやフィドル、ギターを弾いてフォークソング、C & W、ブルグラスを歌っていました。その後キューバのワンタメラが十八番になりました。そんな欧米文化一色の教育を受けた私でさえも、知らぬ間に日本文化の持つ底力や美意識がすっかり育てられていました。日本文化の底力が埋蔵された日本語には美しい言葉が一杯あり、それが美意識を育てるのでしよう。矢作先生も『世界一美しい日本のことば』を書かれています。その言葉の力やカタカムナのウタを唱えると病気が治るといふ不思議なことが次々に明らかになって来ています。

私は美智子皇后様の婚礼の時からずっと好感を抱いてきました。勿論テレビや週刊誌などの中傷記事などで気がかりなこともありましたが、その苦難を乗り越えられるお姿をずっと見ていてお慕いするようになりました。そんな思いは日本人なら誰でも持っていると思うのですが、そうではない風潮があるのは残念なことです。明仁天皇と皇后美智子様も大変靈性の高いお姿で素晴らしい御公務をされてきて、お二人を慕われる皇太子様、

雅子様も素晴らしい高い靈性をお持ちですので大変期待をしています。

今ビッグコミックから『昭和天皇物語』が3巻まで発売されています。監修はサラ・シャントイでも講演して頂いた志波秀宇(北一策)さんです。ぜひお読みください。涙がでるほど感動的ですので子供たちの必読書になって欲しいです。第1巻はネット上で無料配信されています。

昭和天皇は太平洋戦争で大変な苦勞をされましたが、世界の人類差別をなくし植民地を解放した偉大な功績を残されました。平成天皇は戦没者や被災者の多くの靈を慰められ災害地を見舞われました。次は南北朝鮮統一、ロシアと平和条約を締結して4島が返還されることになればと期待しますね。いや、この会報が皆様に届く時にはすでに南北朝鮮が統一されているかもしれません。というのは保江邦夫先生が11月の講座でそんな予言があると話されたからです。10月に韓国へ行かれた先生は半年前に夢で見た場所に導かれ、そこで仏像に出会ってそこは古代朝鮮王朝の御陵があった場所と分かり、先生はそこで卦をみたら、吉備真備の御陵だと出たそうです。

そこは以前に行かれた岡山の天皇の御陵と同じ雰囲気のお気がゆらゆらと満ちていることに気づかれたのです。さらに陰陽道の卦を引いたら、12月の末に南北朝鮮が統一すると出て、さらにその時、流れ星が流れ卦の実証が示されたのです。ホテルに帰ると、一緒に行かれた僧侶様たちが口

ビーにおられたので、その事を伝えると、僧侶様は南北の統一を実現するのは宗教の力を借りないといけません。キリスト教と仏教の僧侶たちが連携して38度線超えれば……」と言われたと。その僧侶様は何年か前から北と南のお寺に行かれ、昨年はローマ法王に会われたそうなので、もしかして本当に統一が実現すれば保江先生の予言は凄いことになります。先生の名古屋のご友人の靈能者も12月末に世界の人が喜ぶことが起ると言っているそうです。

天皇 靈性の時代』p64からの引用

1989年、ゴルバチョフがヴァチカンにヨハネ・パウロ二世を訪ねて1時間話をして、ペレストロイカ実現に踏み切った、と書かれています。私の勝手な想像ですが、近頃のキム・ジョンウン第一書記は別人のようにニコニコ顔になりました。南北朝鮮が一つの国になることは、政權を受け渡して自由化する覚悟をしたこととなります。それによって多くの国から資本が導入され、様々な産業で企業が生まれ、生活のレベルがあげていく取り組みが約束され、ジョンウン氏も組織の高い地位でも約束されたのでしょうか。だから2年前のミサイル発射をした時とは別人のような顔になりました。

保江先生が吉備真備の靈に呼ばれたのも、ご皇室のお代替わりを無事に成就するためだったのでしよう。吉備真備の靈を日本に連れて帰り、ご自分の郷里岡山にある真備町に行かれ、そこでは離れてくれないので、隣の矢掛町にある吉備真備

が育った場所にある公園まで行ったらやっとな離れたそうです。こんな風に保江先生は日本の神々からメッセージを受け取って世界平和のために大変なお仕事をされています。この会報が皆様の手に届いた時、果たしてどうなっているでしょう。もし何も起こってなければお忘れください！

先生は赤穂藩の播磨陰陽師の芦屋道満の家系だそうで、浅野家がお取り潰しになって岡山に引越して名前を保江に変えたそうで、子供の時からおばあちゃんから陰陽師や柔術師の教育を受けて育ったと言われています。ですから合気道の素質やUFOのことは天性の才能をお持ちだったということ、ガンになっても天使が現れルルドの水で治愈され、量子力学で保江方程式を発見され、ノートルダム清心女子大の渡辺和子学長から招かれたり、スペインのモンセラート寺院の修験者と出会ってキリストからの使命を授かるなどと、不思議な体験の本をたくさん書かれることも、皇室をお守りする大役を演じられるのも血筋だったのでしょうか。

保江先生が6年前に出版された『宿家神道の祝之神事を授かった僕がなぜ』で書かれたように、明治天皇まで受け継がれた伯家神道のハフリ神事が皇室で継承されなくなり、その後継者には物理学者が良いと指名されたそうです。そして後継者のお役目を引き受けられてから、日本神界よりの啓示を受ける霊能者たちと一緒に皇室をお守りする運命に導かれ、不思議なことがいっぱい起こ

るようになられました。こんなタイミングで保江先生の年間全9回の講座が開催されたサラ・シャンティも不思議なところですね。

スペインのモンセラート寺院で荒行(合気道に相当)をしていたエスタニスラウ神父様はイエスから日本へ行けとの声を聞いて、広島の中に隠遁しておられた。そこへ保江先生が訪ねて行き、荒行を授かった。しかし最近ある女霊能者に言葉が下りてエスタニスラウ神父はキリストから与えられた使命を果たさずに帰国されたから、保江先生が授かっている教会の十字架を伊勢の八咫鏡の光と熱田神宮の天の叢雲剣の光を授かり、白金の部屋で皇室に向けて「祀れ」とのご宣託を受け、そのとおりのことを果たされています。

保江先生は麻布の茶坊主から大学退職後には東京の麻布あたりに住むと予言され、その通りの事が起こって白金に素敵で家賃も手ごろなマンションが見つかりました。そこは皇居の南西の鬼門で、そこに引越すと歩いて20分の所に明治天皇をずっと助けてきた伯家神道の最期の学頭だった高濱清七郎のお墓があったのです。さらに安倍晴明の生まれ変わりの高校生が訪ねてきて、保江先生が皇室をお守りするために白金の家が与えられたのだと伝えられ、その直後に富士吉田へ行くことがあって、霊気を感じて立ち寄ったところに安倍晴明の師である泰山府君大神の霊を祀った石碑や廟に出くわした。

と言った盛りだくさんの不思議なお話が、先生の昨年末に出された新著『神代到来』に詳しく書かれていますので是非お読みください。とにかく保江先生がどれほど凄くお仕事に取り組まれているかお判りになったとおもいます。

韓国での吉備真備のお話は昨年11月の第8回の講演です、平成30年度全9回のDVDもセット価格販売しますのでご注文ください。

私は昭和天皇が亡くなられた時は皇室のことに関心がなかったのでこんなに緊張しませんでした。しかし今回は世界中で日本人だけしか体験できない偉大な祭祀国家に生まれ住んでいるという現実気づき、昭和・平成という激動の時代を生きてきて、新しい霊性の時代の胎動を感じ取る節目を迎えることができるのです。

GW10連休は平成天皇が退位される4月30日、皇太子様の即位される5月1日に世界から注目が集まり、10月22日 即位礼正殿の儀、11月14日・15日の大嘗祭が終わるまで、大きな天災や人災が起こらずに何事もなく平安であってほしいと願う気持ちが続いてきます。南北朝鮮統一、ロシアとの平和条約が締結され4島返還、のみならずアジア全域、そして世界中が平和になりますよう、君と民の祈りが一体となる時代の到来を期待したいと思えます。

以上のように31年も保江先生と矢作先生の塾が始まりますが、3月21日は宮崎貞行先生の

著書『寄りそう皇后 美智子様』を使って美智子妃の格調高い秀歌に表現されています。お歌を響き合わせ、平成を懐かしむ集いを開催いたします。新たな時代の節目を迎え、新しい時代の到来を感じさせる今回のお代替わりにより、失っていた日本の霊性が復活し、日本の真の姿が現れることを期待したいと思います。

次に続くのは

- ① 定番の徳庄博美さんからの麗しの国若狭よりは今回はお休みです。次回をお楽しみに！
- ② 福島県南相馬の同慶寺住職田中徳雲さんからの夏の子供保養プログラムと境内のEMによる除染の現在の状況のお話
- ③ 伊勢に移住されて7年半の吉田博昭さんからの伊勢便りNo.18では霊山 朝熊山のお話から自然豊かで、人の繋がりの濃さに居心地の良さを感じておられるお話

近況報告 (二〇一八年冬) 南相馬市小高区

同慶寺住職 田中徳雲

その一、夏の保養プログラムについて

お盆明けに予定していた保養キャンプに家族六人で行って来ました。



行き先は阿蘇山の麓、熊本県菊池市で、正木高志さんが住んでいらっしゃる「はなとり村」のはなと

り文庫」です。正木さんは、お茶の栽培を中心とした農業をしながら、自給自足に近い生活をされてきた方で、三十年程前から木を植えてこられました。「自身と娘さんと建てた家の近くに、土地本来の自然のバランスを考えて木を植え、すべての生きものたちが喜んでくれることを願って、そこを花鳥山(はなとり)山と呼んできました。

七年程前、その花鳥山の奥にある廃村になった村(かつては七世帯が住んでいた小集落)を、買って欲しいという話が、その土地の地主さんからあったそうです。その地域に多くの水が自然湧出していることから、水源トラストという観点からも、正木さんは守りたいと考えられて、その廃村を買い取られました。

数年かかつて正木さんの家族や仲間たちが少しずつ手を加え、建物なども使えるようにして、二〇一六年には、その場所で生命平和な東アジア地球市民会議と花鳥村祭りが三日間、同時開催されました。私も福島からの声を届けるということで参加させていただきました。正木さんの所には、十年程前、韓国を徒歩巡礼された時からのご縁で、韓国や中国からも訪ねて来られる方が多く、その三日間の会議とお祭りには二百人以上が集まり、国を越えて、言葉を越えて、共に祈り、生命平和な東アジアをテーマに話し合いました。

たとえ生きる国や地域は違えども、抱える問題は似ていたり、その根もまた同じだったりします。現代社会が抱える問題は、国単位では解決できない問題も多く存在します。それらを共有したり、

違いを感じたり。お互いに学び合いました。国を越えて市民どうしが仲良くなるのが、どれ程心地良いことなのかも感じました。宮沢賢治が、自我の意識は個人から集団社会宇宙と次第に進化する」と言っていたことを思い出しました。

今回、私の家族の他に、韓国から母子二人と男性一人、それに信州大学の学生が泊まり込みで正木さんの話を聞くために来ていました。韓国からお二人は二年前の東アジア地球市民会議でもお会いしていました。男性は太極拳の先生で、毎朝無料で指導をして下さいます。裸足で草の上に立つだけでも、朝のプラーナとお日様の光りでもとても整います。太極拳は体のバランスや気の流れを感じます。女性は生命平和な生き方を学ぼうと小学校二年生息子さんを連れて来ていました。お互いに照れくさそうながら、小さな国際交流が始まりました。



そして今回のキャンプのメインイベントは、子どもたちだけでご飯をつくることでした。時間はかかって、自分でやってみることに。不味くなくてもしょうがないし、「ご飯がつかれなかつたら食べられない。大学生がリーダーになって話をまとめたのが、大人のところにはなるべく行かないというふうにして。お昼は流しそうめん、夕飯はカレーというのが自分たちで決めたメニューでした。さらに、とてもワイルドな環境ですから、流しそうめんの竹をはじめ、箸や器もつくることになりました。

水神さまにお祈りをした後、九時半ぐらいから始まりました。何度か私は隠れて炊事場を少し遠くから見えていましたが、子どもたちは、身振り手振り、または長女のスマホで単語を翻訳したりして協力しながらやっていました。その様子にはとても感動しました。しかし、大学生がいても、かまどで火を焚き、湯を沸かすことは経験の浅いものにはなかなか難しく、流しそうめんを食べられたのは二時半ぐらいでした。

子どもたちは、食べる前までは暗く疲れた表情をしていましたが、食べたら元気になりました。

さらに夕飯作りの時には、その経験が活きて、注意深く上手に火を扱い、「ご飯を炊き、カレーを作って、親たちにお裾分けを持ってきました。その表情はとても明るく、自信さえ感じるものでした。その日の夜、子どもたちは、トランプやゲームと一緒に遊びました。日本語と韓国語でそれぞれ話しても、なんとなく通じるように、子どもの可能性に希望を感じました。



子どもたちはたった一日で変わりました。特に年の下の子ほど風向きが変わるようでした。これは煩惱が少ないからだと思えます。年の上の子ほど、テレビがないことや、近くにコンビニがないことを嘆いていました。日々の生活からのしがらみな

のでしょうね。今回伝えたい大切なことの一つに臨機応変にして状況に適應することがあります。そこから見えてくるものを、自分なりにさらに掘り下げてみて欲しいと思っています。

来年は、もう少し期間を延ばしながら、大人にも子どもにも更に充実した保養キャンプになるように、工夫していきたいと思っています。以上のことは、原発事故後の福島で生きるく七世代先の子どもたちのためにくくしくしま文庫開設のお知らせ 増補版」として現在作成中です。正木高志さんの著書『聖命平和憲法』と併せて、読んでみたい方はご連絡ください。

その二、境内の除染について

今年の春からUネット(地球環境共生ネットワーク)さんに「縁をいただきまして、お力添えをいただいております。塩入のEM活性液を培養し、その百倍液を境内全体に毎週一〜二トン散布してきました。約一町歩(9900㎡)ある境内の環境改善が主な目的です。環境が改善されれば、土地の力も上がり、そこに住む人々、動植物の健康状態、免疫力等が向上することを願っています。境内の山林部では、一部まだ1msv程度の放射能があります。私たちの努力で、子どもでも安心してお墓参りに来られるように、また、お年寄りも、お寺にお参りに行くとき体が調子よくなるように、そんなことを願っています。

毎月一度、お寺にたくさんの方が集まり、先輩たちの指導の下、無煙炭化器での炭づくり、塩入EM活性液の培養と散布、EM団子づくりと結果づくりが始まりました。みんな一緒に楽しくや

ることが大切だと思っています。まだ始まったばかりですが、お陰様で少しずつ広がっています。

特に力を入れているのは、境内中央にあるイロハモミジです。樹齢五百年を超えるといわれる立派な樹ですが、十年程前からのカミキリムシによる被害で半分が枯れています。現在、炭による根回りの土壌改良、EM団子による結果、百倍に薄めた塩入活性液を全面散布しています。

そして、忘れてはならないのが毎日の声かけです。何をしても必ずはじめには声を掛けて、微生物たちへの感謝とお願ひ、それから虫たちにもここはあなたたちの住むべき所ではないので引越してくださいと伝えていきます。これは可能な限り毎日やっています。見えない世界だけにその効果が目に見えるように現れると、祈りの大切さ、声かけの大切さを強く感じます。お陰様で、久しぶりに新しい葉が芽吹いた年となり、秋の紅葉も久しぶりに綺麗に紅葉しました。来春も楽しみます。

同時にお祈りする自分自身の生活、想念の管理も改めて見直しています。まずは自分自身の生活を見直し、謙虚に、すべてのいのちの声を聞こうと思いい行動しています。本来はすべての生きものたちが絶妙の関係性でつながっており、一つであることを気づかせてくれます。そのような気づきこそ、福島の真の復興には欠かせない、原発事故からの反省ではないかと思えます。

関わってくださいるすべてのみなさまに、心から感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。 合掌

連絡先 田中徳豊 千九七九-二一〇二 福島県南相馬市小高区小高字上広畑二四六 Fax0244-44-2335
Email: tokunr2525@me.com

伊勢便り No18 吉田 博明

奈良時代、修験道者によつて開山された伊勢の霊山 朝熊山(あさまやま)には、平安時代、真言宗の開祖 空海による 金剛證寺が創建されています。金剛證寺の「本尊は虚空蔵菩薩(くわくぞうぼさつ)ですが、伊勢神宮の天照大御神も一緒に祀られていて、神仏習合」の思想が体現されています。金剛證寺の隠れた神様は 釜星(「明けの明星・宵の明星」で、伊勢神宮の内宮は 北極星(太一)、外宮は 北斗七星)と伝えられていて、共に信仰の対象が自然崇拝だけでなく、宇宙まで広がっていたことをうかがわせています。一糸乱れず調和を保つ天体の運行を見ながら、世界平和の究極の姿を重ねていたのかも知れないと思ったりしています。ちなみに、構造物や人体に不可欠な鉄分は、もともと地球上には存在しなかった物質で、他の惑星からもたらされたことも、私たちと宇宙のつながりを反映しているのではないのでしょうか。

朝熊山の展望台からは、南側の神宮の森(伊勢市面積の25%)、西側の伊勢三山の麓まで広がる伊勢平野、北側の眼下に展開する伊勢市街地と伊勢湾をはさんだ対岸の知多半島・渥美半島、東側の鳥羽市街地などを一望することができます。展望台を訪れるたびに、水が性質を変えながら、海・森(山)・大地を循環しながら、私たちの「のち」をつなぐ「農」「食」「環境」を支えている大自

の営みを身近に感じています。そして、訪ね歩いてきた伊勢平野に点在する神社・古刹・史跡や時代を築いた偉人たちの息づかいを思い浮かべ、時空を超えた過去の歴史・伝統・文化の中に、これから生き抜く学び方・働き方・暮らし方などのヒントがみついているとの思いを新たにしてきました。

1995年、神戸市で、阪神淡路大震災に遭遇したとき、家族の無事を確認した後、とつさに窓を開けると、夜明け前の薄暗がりの中に、日々好んで眺めていた大木が何事もなかったように空に向かって凜と立つ姿が目に入りました。その時、存在の基本は「自然」との思いが脳裏を駆けめぐりました。その後、震災の惨状を目の当たりにしながら、便利で快適な生活をしていても、形のあるものは、いつか壊れてしまうことを実感しました。そして、次第に「都市」は、人間の「のち」と同じように、はかないとの思いを強くしました。

鎌倉時代の歌人 鴨長明は、京都で自身が体験した安元の大火・治承の竜巻・源平の騒乱・養和の飢饉・元暦の大地震など、相次ぐ自然災害や人災に遭遇した後、随筆「方丈記」の冒頭で

ゆく河の流れは絶えずして
しかも 元の水にあらず

淀みに浮かぶ うたかたは
かつ消えかつ結びて久しく
とどまりたるためしなし
世の中にある人とすみかと
又かくのごとし との

無常観を書き残しました。
阪神淡路大震災以来、私に



とつて、こころにひびく一節となっています。サラリーマン時代、高度経済成長を牽引していた自動車業界と小売業界に関わりのある市場開発業務を担当していました。その経験から、モノ作りとは、事業者の「志」をモノに変える「流れ」を築くことであることを学びました。また、その「流れ」とは、「消費者」「生産者」「社会」との間に、お客様の満足「生産者の喜び」「雇用の確保」との三方良しの循環のことであり、さらに、その「流れ」を支える人作りまで含めた総合的概念であるとの認識を深めることができました。

同時に、この概念からすると、自動車業界(第2次産業)、小売業界(第3次産業)もモノ作りとしては、有形なモノを扱うか、無形なサービス情報を扱うかの違いはあるものの、同じで、農林漁業(第1次産業)まで含まれることを知りました。そして、トヨタ自動車でのお客様に始まり、お客様で終わる「顧客満足を開発・購買・販売面からまとめる主査制度と日本独自の生産管理システムで、強い生産現場を築いた、バランスの取れた両立とそれを支えてきた人作り制度に直接触れました。そして、良い品質のモノを作れば、顧客・収益は後からついてくるとの生産指向に偏った事業観は時代にそぐわないことを感じました。

伊勢沿岸には、大淀・有滝・浦村・国崎・和具・浜島など16か所の漁港が点在しています。これらの漁港を訪れるたびに、そこでの漁獲量の減少・人手不足・高齢化の影響を受けて、低迷する漁業の窮状を眼にしてきました。漁獲量は、養殖を含めて、ピーク時の3分の1にまで減少しています。

2018年11月、政府は漁業を活性化させるため、70年ぶりに漁業制度を改正することを閣議決定しました。従来の制度は、戦後の食糧難の時代に制定されたもので、漁獲量の増産を目的としていましたが、今回初めて、資源管理のため、漁獲規制が打ち出され、「持続可能」というキーワードが盛り込まれました。現在の漁業法では、各漁協にそれぞれの漁場が配分されていて、その中の漁獲量は漁協ごとの話し合いで決定する仕組みになっていったそうです。このため、アワビ・伊勢エビ・ウニなどの定住性の高い魚種は管理できていたものの、マグロ・カツオ・サンマ・サバなどの回遊性の高い魚種は管理できていなかったそうです。

しかも、漁獲総量は行政（水産庁・業界団体）によって決定されていたため、当事者である漁協は直接関わっていなかったそうです。このため、行政が設定した漁家量はサンマが27万t、年、漁場での漁獲量は10万t、年で、需給のバランスが大きくずれていて、他の魚種も20%から50%多く設定されていたそうです。この漁業制度上もたらされる需給のアンバランスが社会情勢の悪化と共に、漁場での乱獲を助長させ、収益性を低下させてきた要因であると、専門家は指摘しています。漁業は、生命維持産業として、資源管理をきちんとすれば、儲かる産業のはずです。ノルウェーでは、漁協が話し合いで漁獲量を決めるまで、行政は漁獲量を提示しないことで、乱獲を防ぎ、収益性のある持続可能な漁業を実現させていると伝えられています。

伊勢の足元には、「のち」をつなぐ産業基盤や

観光資源が眠っています。先端技術（AI・ロボット・ドローンなど）を活用したサービスマ産業・6次産業化などのモノ作りの流れを加速させれば、持続可能で循環型地域自給社会の実現は、手の届くところまで来ています。

伊勢に移住してから、すでに7年半が過ぎました。季節ごとに趣きを変える自然の営みや、日の出・夕陽を身近に感じながら、渡り鳥などの野鳥・川ガニ・カエルなどの生き物を、日々目にしています。そして、生産者の顔が見える範囲で収穫された新鮮な食材（魚介類・肉類・野菜・果物など）を満喫しながら、すがすがしい穏やかな日常を過しています。

伊勢は、血縁・地縁を色濃く反映した濃い人とのつながりを留めたコミュニティ社会が残っています。その中で、日常生活を過している人と、人とのつながりは薄いものの、便利・快適だと思っていた都会でのマンション生活を思い出し、「幸せ」の価値観が逆転しました。終の棲家を念頭におかねばならない晩年を迎え、自然と共生しながら、歴史・伝統・文化を育んできた中で暮らすことで、ふる里に帰ったような居心地の良さを感じています。

講座めぐり

- ① 10月26日の井上和幸先生の健康能楽講座第一回の体験報告を前田弥里さんと細川篤子さん
- ② 10月28日の渡辺友和先生の気づき解剖学・入門編のレポートは岡田容子さんと勝部喜成さん。
- ③ 11月27日の杉浦貴之さんのトーク&ライブの感想は松岡香江さんと永友宇多子さんからの6名の方からお寄せ頂きました。

和の動きに惹かれて

前田 弥里

昨年から三宅先生の姿育教室に通っています。姿育を学ぶに

つれ和の動きにとっても興味が湧いていたところ、サラシヤンティの講座案内の「健康能楽講座」が目にとまりました。能にはなじみはありませんでしたが、以前から体験したいと思っていたので参加させていただきました。

まず前半はお謡いで「西王母」を習いました。西王母というのは、可能性のエネルギーのかたまりであり、愛と智慧をもって限界を超えて人間の可能性を最大に引き出す女神だそうです。これを謡うことで様々な奇跡があるとか。そんな話を聞くのがぜんやる気も増して、奇跡を期待しつつお謡いのお稽古に臨みました。

お謡いは、今まで合唱などで歌うのとは全く違い抑揚がないので腹から声を出さないと声を通りません。井上先生もさることながら、長年練習されてきた弟子さんのお手本は腹から声が出たすばらしいものでした。ちょっとお稽古をしただけではなかなか声が出るものではありませんが、井上先生が教えてくださった、夜でもできる練習方法（声を出さないで謡う方法）をしばらくやると、腹が充実したのか一時間のお稽古の最後の方ではお稽古前よりも大きな声が出ました。（この練習方法はシュークレット？ですので、知りたい方は次の健康能楽講座に参加されることをおすすめします）



そして、手がピリピリとして体の横につけようと
してもつけられないくらい手の平から気が出てい
ることにびっくりしました。お謡いでは謡うとい
うより音を体に響かせることが重要であるよう
体に響かせることで本当に体中に気がみなぎる
のを感じました。

後半はお仕舞です。摺り足という一見地味な動
きですが、腹を使ったとても難しい動きで教えら
れたようにはなかなかいかず、和の動きとい
うのは腹が要なのだと思えて実感しました。これは一
回講座を受けたくらいでは習得はできないと思
いました。

和の動きに惹かれての参加でしたが、家では摺
り足よりもお謡いの方が練習できています。いま
我が家では週二回寝かせ玄米をしこむので、圧力
鍋で玄米を炊くときに、西王母の功德を信じ教わ
った謡を謡いながら玄米を研いでいます。毎回玄
米を炊くときはワクワクするのですが、西王母を
謡いながらするとこのワクワク感が増して、寝か
せ玄米の美味しさも増すような気がします。

現代の日本ではあまり縁がなくなっただかに見える
能の世界に縁がなくなり、とても嬉しく思います。
このような講座を開いてくださりありがとうございます。
しました。

健康能楽講座に参加して 細川 篤子

ヨガをやっていることもありインドの文化への興
味が拡がり、アーユルヴェーダの講座やシロダラー

を受けたりインド音楽のコンサートに行ったりして
いる。知れば知るほどインドの叡智は素晴らしい
しおもしろいと思う。

インドの先生のマントラ講座
を受けた時、マントラのバイブ



レーションは体に良い効果をもたらすと教わった。
確かに先生の唱えるマントラにはパワーがあった。
ただ、サンスクリット語は私には母国語ではないん
だよな〜と少しひっかかってもいた。知り合いの中
にも、食べる物、着る物、音楽、哲学、生活の広範
囲においてインドの影響を受けている人がいる。

せっかく日本人に生まれてきたのに自分の国の
伝統的なことを知らないまままで他の国のことばか
り学んでいいのかと思うようになった。愛国心とか
日本人なのだから日本の文化をと、杓子定規に考
えているわけじゃない。でも、このままじゃもった
いというか、ニホンジンで生まれてきた理由があ
るんじゃないか？インドの先生に京都を案内する
機会があり下調べをした時も、自分の国のことを
知らない…と何度もドキッとした。

そんなときに、サラシャンティでお能の講座があ
るのを知った。なんと絶妙なタイミング。

日本の伝統芸能の講座って私の記憶では初めて
だ、幅広いな〜サラシャンティ。

お能は全く知識がない。夜、たまたまつけたNH
K Eテレでお能をやっていて、しばらく見たけれど

さっぱりわからない。能の知識も得られるしプロ
の能楽師に直接会えるめったにない機会と、申し
込んだ。初めてお会いした井上先生の第一印象は
山のように思った。

山と言っても重たさはなく落ち着いた安定感が
あり静かで爽やか。まなざしが半眼に見える。
歌舞伎役者の、下やあ感とは対照的。着物の着こ
なしが美しく、見ているだけで清々しい。こちら
は自分の結婚式に使って以来の足袋をタンスの奥
から引つ張り出してきたレベルだよ…
ウン十年ぶりの足袋、最初は少々きゆうくつだっ
たが慣れると足の又の部分はほどよい刺激があり、
足元シャッキリのなかなかいい感じだ。

今回謡う「西王母」のお話がある。普通のお能で
はあまりやらない演目らしい。先生の謡を聞いて
重篤な病状が回復したとか、死にそうだったワンコ
が元気になったなど不思議な事例続出、ヒーリン
グ効果があるのだそうだ。なるほど、このあたり
はやはりサラシャンティ。

皆で謡う。

高音で謡うほうがいいとのことと3段階の違う
高さでやってみて皆が一番謡いやすい高さを決め
る。皆で謡うと言葉が拡がって会場いっぱいにあふ
れてくるような感じがする。神社の祝詞のよう
でもある。お弟子さんたちはさすがの音量と響き。
しつかり発声すると気持ちいい。

なにかに合わせて歌うのではないので声を出す

ことに集中しやすい。体を丸めていたら声が出ないので気づいたら良い姿勢になっていた。猫背解消にも良さそうだ。体がポカポカしてくる。

次に大きな声を出せない時の練習法として、無声音のささやき声で謡う方法を教わる。言葉一語一語を切るようにお腹を使って発音することのやり方は、ヨガのカパーラバーティという呼吸法にも似ている。こちらの方がキツイ。「これを21日間毎日やってみてください、とても声を出しやすくなりますよ」と先生がニコニコしながらおっしゃった。

次に摺り足。

床と足の間に薄い紙一枚ある感覚で床と並行に足を出す。下を見ないでやや遠めを見ながら前に進む。教わった通りの足の運びを心がけることに全意識が向く。なんだか歩く瞑想みたいだ。

次に、床の板の目が足の親指と人差し指の間、足袋の又の部分から外れないようまっすぐを意識しながら進むやり方を教わる。これがなかなか難しくすぐ外れてしまう。でも、今までこんなに足の裏の感覚や床の感触に集中して歩いたことはなかった。摺り足はインナーマッスルを使い、皮膚から脳への伝達を促すのだそうだ。確かに普段の歩き方と使う場所も体感も違う。会場もさっきの謡の「動」から「静」の空気に変わった。

最後に先生の西王母の謡では空気が一変、会場の空気が共鳴して振動しているような、細胞や分子や原子とかのすごく小さいレベルにまでしみ渡っ

ていくかのような感じ。お弟子さんの演舞も、今まで能に持っていた硬いイメージではなく背筋がピンと伸びるような気持ちよさのなかにも華やかなところや親しみやすさもあり、とても良い雰囲気だった。

最後の感想のシェアでも、2回目3回目の講座の要望が続出し、早々に2回目の開催決定となった。京都でも体験ができるそうだが少々遠いので、六甲で気軽な気持ちで伝統芸能を学べるのはとてもありがたい！

気づきの解剖学を受講して

勝部 喜成



気づきの解剖学」は気づきが一杯！

私は50代の男性です。最近、少し腰痛が出てきたこともあり、気づきの解剖学という怪しいタイトルに引かれて、この講座を申し込みました。会場は多くの参加者で熱気ムンムンでした。内容はさておき、先生の声がいい！スタッフのかたも親切で、楽しく受講させていただきました。

健康になるはずの体操で身体を痛めることがある、身体を知ることがすごく大切であることがわかる講座でした。

ワークが始まりました、身体にシールを貼って肩、足の付根、くるぶし姿勢の評価です、あんのじよう、足の付根が前に出ている。目をつぶって足踏み50回、どれだけ位置がずれるか、結果30センチくらい前進、びっくりです。会場はキャッキヤとざわめいて、皆さん歪んでいるようで楽しそうです！？

先生から質問です、腰に関係する言葉をあげて下さい」とのこと。腰が抜ける「腰を入れる」：とあがり、最後に「腰を回す」がでて、先生がニヤリ、腰を回すことはできません」と、びっくりです。そこでワーク、歩く動作をしてど「が動いているか確認します。

腰あたりかなと思いきやみぞおちあたりの背骨とのこと、なるほど背骨が動いています。自分のイメージと実際の身体の動きが一致していないことにびっくりです。回らない腰の回転をイメージしていたことが腰痛に繋がっていたのかなと感心しました。芸能人の武井壮さんの「自分の思い通りに身体を動かさなければ、いい結果は出せない」の例えも話され、イメージと実際の動きを一致させることの大切さを実感しました。

もつと身体のことを一杯知って、一杯気づきたいと思いましたが、先生は姿勢バランス研究所(モメンタム)で診察もされています、またモメンタムニューレターの配信もされており、早速申し込みました！

身体に気づき、自身で健康になっていく、とつてもわくわくします、これからもよろしくお願いたします。

気づきの解剖学 入門編に参加して

岡田 容子

十月二十八日、気づきの解剖学 入門編に参加させていただきました。渡辺友和先生は『momentum 姿勢バランス研究所』を主宰され、

姿勢講師・鍼灸師・ヨーガインストラクター等、多彩な顔をお持ちです。フィットネスクラブの会員に身体をいためている人が多いことに驚き、健康のために行うボディワークでなぜかえって身体をいためてしまうのだろうか」と疑問に思ったことがこの道に入られるきっかけだったそうです。

一般に、マッサージや整骨院に行ってもその時は少し症状が軽くなったように感じても、数日もすると戻ってしまい根本的な治療にはなっていないことが多い。そこで、その人にぴったり合ったエクササイズのやり方を伝えて自分自身で日々それを行うことにより、自分の力で調子を上げていけるようサポートすることができないだろうか」と先生は考えた。「解剖学」というとつきにくい題名にあえてしたのは、身体の仕組み全体からとらえていくことの大切さに気づいてほしいという願いが込められているということでした。

以下、印象的だったことをいくつか。

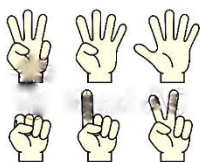
○人と比較してつい無理をしたり、頑張ったりすぎたり(量が多い)、ということの他に「イメージと動きが一致していない」ことがストレスになる。武井さんは自分が上手にやっているイメージがすぐにできるから、

どんなスポーツでもうまく

こなせる。「指遊びワーク」

右手と左手で折る指を一本ずら

して、「二、三」と口に出しながら指を順に折っていく。非常にやりにくく、ストレスを感じる。↓身・意の一致が大切!



○歩く時のねじれの中心は胸椎の七番あたり。

ねじりのポーズをする時は、腰を回すのではなく胸椎七番をぐっと上げ、腹を締めて竜巻のようにらせんを描いて回すイメージで行うとよい。

その他、呼吸について・関節ポキポキ問題・背筋の左右バランス・ストレートネックの治し方等々、受講者の質問に答えながら丁寧なアドバイスがありました。

二人組でワークすることが多かったのですが、それぞれの身体がこんなにも違うのだとあらためて驚き、身体全体のつながりをイメージすることの大切さを知ることができたと思います。

ひとりひとりの身体がもっとしなやかに軽やかに、ふんわりやわらかくなるように、役立つアドバイスをたくさんいただきました。どうもありがとうございました。

杉浦貴之 トーク&ライブ&対談

命はそんなにやわじやないーに参加して

松岡 香江

19年前にがん余命宣告を受けられた、魂のシンガーソングライター・杉浦貴之さん。

杉浦さんの元気な笑いと歌でライブが始まりました。

杉浦さんはサラシャントイでは今回が3回目のご出演とのこと、初回

の10年前、2回目の3年前の参加者が駆け付けたほか、がんサバイバーの方、現在治療中の方、治療師の方などが来られ、会場は温かい活気で包まれました。私自身は、3か月前に乳がんの手術を受



けたばかりで、杉浦さんがどんなふうにして元気になられたか、気持ちの変容を知りたくて参加させていただきました。

28歳で希少がんの余命半年の宣告を受けられたそうですが、命のスイッチが入ったのは、家族のサポートが大きく、お母さんの、主治医への反応や 貴之は、生きていてほしいんやから」という言葉だったとのこと。そんな無条件の愛の詰まった言葉に感動して涙が出てくるとともに、そういう言葉が何よりも人を元気づけるのだと改めて思いました。

ただ、命のスイッチが入っても、闘病生活の苦しさは続きます。実は本当に元気になってきたのは、この5、6年なんですよ」とのこと。どうやって乗り越えられたんだろうと思いつつさらに聴いていくと、そのカギは、ホルルマソンへの参加という夢を持つことだったそうです。マソンの完走、さらにはその翌日に結婚式を挙げるというふうになり、病室でイメージトレーニングをしていたとか。

そして、がん余命宣告から6年後に完走、その3年後には完走翌日に挙式という夢をどうとう実現させ、その感動を共有したくて、がんサバイバーホルルマソンツアーを主宰され、今年で9回目、毎年たくさんのがん患者やサポーターを引率し、完走ではなく、完笑」をみんなでめざしているとのこと。これからの生活については、今後の仕事の展開や将来設計など考えなくてはとプレッシャーを感じていた私ですが、そんなことにとらわれずに小さくてよいからやりたい夢を持つとうと思

い、ヒントを得たように思います。ホノルルマラソン参加への興味も湧きました。

自作の、心温まる歌を元氣いっぱい何曲も歌い、元氣づけてくれた杉浦さん。その歌声はエネルギーにあふれ、マイクが邪魔なくらい。あけつぷろげに語るトークで私たちを爆笑させたあとに、元氣が出るけど感動的で泣いてしまう歌の数々は、心にしみました。また、みんなで立ち上がって「ピンパワー」の掛け声とともに、拳を突き上げてみたり、隣の人と手をつないだり、一体感を感じたひとときでした。

休憩のあとは、杉浦さんと清水正博さんとの対談。体が弱かった清水さんがトライアスロンを始められて元氣になられたことなど、清水さんの人生や健康の秘訣や裏話、爆笑のお話も多く、とても楽しい会となり、参加できてよかったです。

杉浦貴之さんと出会って

永友 宇多子

シンガーソングランナーとして皆さんに勇氣と希望と元氣を与え続けている杉浦貴之さんこと、貴さん。私が出会ったのは2008年、貴さんが腎臓ガン余命半年との告知から8年目、私がガン告知から6年目でした。ある方の講演会の主催をさせていただいた時に友人の紹介でゲストとしてお越しくださいました。この時に始めて貴さんの存在を知り、まだまだ不安と恐怖のなかにいた私にとって、親子ほど年齢の違う若者が、自分の体験を歌にトークに込めて発信されていることが衝撃的でした。

2007年に発売されたCDにリリースされている大好きなオリジナルソング「大丈夫だよ」は、だいじょうぶだよだよだよ」というフレーズが何度も繰り返されている。当時の私の不安な心をふんわりと包んでくれるようで涙が溢れました。また著籍「命はそんなにやわじゃないや、いろんな方の体験談を綴った情報誌「マッセンジャー」にも生きるヒントがいっぱい詰まっています、今でもたくさん元氣を頂いています。

思い返すとときりがありませんが、貴さんが完走されたホノルルマラソンでの「走れるほど元氣になったのではなく、走ったから元氣になった、まずは動くこと」の言葉はそれからの私の行動に大きな影響を与えてくれました。

また、貴さんのHPの自分のなかでもただの闘病記ではなく、逆境から新たな自分を見つけて出すことができることを伝えてくれています。

先日、神戸の六甲にあるサラ・シャンティでの杉浦貴之のトーク&ライブ「神戸」で二年半ぶり

に会うことができました。益々パワーアップして笑いと涙で力強く発信し続けておられることに感動しました。会場では感動で涙を拭う方もたくさんおられ、私も心と体が喜んでるのを感じさせてもらいました。これからも貴さんの勇氣と希望と元氣のメッセージが必要な方に届きますように応援しています。



編集後記

平成最後の会報になりました。世の中は氣候も世界の情勢も日本の情勢も問題山積みですが、例え明日大地震が来ようとも、今日自分がすることは、心穏やかに過ごしたいと思っています。けれども、最近放射能汚染以外に氣になることがあります。それは世界中のプラスチックのごみの多さとその行く末です。いくら分別しても最後がどうなっているのが不透明なのです。プラごみや資源ごみが中国などに輸出されていると知ったときは頭がクラクラしました。日本も問題ですが、公害対策が遅れている中国などに輸出されたらそれこそごみの行方はわかりません。

そして、クジラのお腹からレジ袋が一杯出てきたとか、長年太陽光に晒されて、粉々になったマイクロプラスチックが海どころか、私たちの飲み水である水道水にまで入り込んでいっていることを聞くと、何か、これに対して対策しないといけないと居ても立っても居られなくなります。同時に海の生き物も私たち人間も一つながりだということを感じて感します。

神戸市の環境局の人に相談しようとか、こんな時にこそ市会議員の方に超党派で働いてもらうのがいいのではとか考えてはいますが、実行にはいたっていません。プラゴミの分別などせず、神戸市に何基もある巨大焼却炉で燃やした方がよいのではないかと自分なりに解決法に思いを巡らす今日この頃です。

清水和子